一般演題

01 福井県域のマダニにみる紅斑熱リケッチアの保有状況

○石 畝 史 (福井衛環研)・藤田博己 (大原研究所)・高田伸弘 (福井大・医)

Prevalence of spotted fever group rickettsiae in ticks in Fukui Prefecture

Ishiguro, F., Fujita, H., Takada, N.

わが国の紅斑熱群リケッチア (SFGR) の分布データは未だ不十分である。2003年5月～9月に福井県 (一部石川県) で植生上からマダニ未寄生期を採集し, SFGRの分離を試みた。採集地点は, 若狭地方の小浜市郊外, 百里ヶ岳および野坂岳, また奥越地方では取立山, 経ヶ岳, 白山麓の6ヶ所で, 平地～標高1,800mにわたる。供したマダニ数は, *Haemaphysalis flava* 83, *H. longicornis* (H1) 55, *H. megaspinosa* 50, *H. japonica* 2, *Ixodes ovatus* 59, *I. monospinosa* (Im) 6, *I. nipponensis* 1, *Amblyomma testudinarum* 3および*Dermacentor taiwanensis* 9, 計4属9種の幼・若・成虫268個体であった。SFGRが分離できたのはすべて若狭地方で, H1幼虫の4/17(23.5%), 若虫の15/25(60%), ♀の3/5(60%)および ♂の5/8(62.5%), およびIm♀の2/5(40%)の計2種29個体であった。分離株は, 単クローン抗体反応性からみてH1由来は*R. japonica*近縁のLon Type, Im由来は*R. helvetica*と思われたが, PCRによる検討も併せ報告する。

02 日本における紅斑熱群*Rickettsia helvetica*保有マダニの調査経過

○藤田博己・渡辺百合子 (大原研究所)・高田伸弘 (福井大・医)

Preliminary report on distribution of ticks as vectors of *Rickettsia helvetica* in Japan

Fujita, H., Watanabe, Y., Takada, N.

Rickettsia helvetica は, 日本紅斑熱病原体*Rickettsia japonica*に引き続いて国内で確認された病原性の紅斑熱群リケッチアである。ヨーロッパでは1999年に*R. helvetica*のヒトに対する病原性が確認されて以来, このリケッチア感染による症例が集積されつつある。日本では1993年に福島県のヤマトマダニから最初に分離され, その後はヒトツトゲマダニとシュルツェマダニが加わった。これらの分離株は血清型別から単一で, 紅斑熱群の不明種IOタイプと仮称された。最近になって, これらは*R. helvetica*に一致することが分かった。国内における*R. helvetica*感染の確実な症例はまだ見つかっていないが, 保有種がいずれもヒト嗜好性の強い種類であることから, 感染の機会が多いものと予想される。地理的には, 北海道から九州の鹿児島県にいたる広い地域にこのリケッチア種保有マダニが散在していることが明らかとなった。